

平成 24 年度朝日山地森林生態系保護地域管理委員会開催

5月24日（木）山形市の山形県自治会館で「平成 24 年度朝日山地森林生態系保護地域管理委員会」を開催し、管理委員会の委員、当センターを含む東北森林管理局や関東森林管理局の関係者合わせて27名が出席しました。

会議では、はじめに主催者の東北森林管理局合田計画部長より、朝日山地森林生態系保護地域に関係の深い有識者、自然保護団体等の代表として、管理委員会のみなさまにお集まりいただき、約7万ヘクタールの広大な面積にブナ林等が原生的な自然状態を維持している「朝日山地森林生態系保護地域」の管理状況等について協議するため、平成15年から委員の先生方はじめ、地元のみなさんからのご指導・ご協力をいただきながら、「地域参加型の保全管理」に取り組んできたところ。今年度もみなさまから、ご意見をいただきながら、施策の一層の充実を図っていきたいと考えていますとのあいさつがありました。



続いての審議事項では、ボランティア等の巡視活動、モニタリング調査等について、事務局からの説明の後、議論が行われ、今年度からの新たに取り組むこととしている「朝日山地森林生態系保護地域内の人工林から天然林への誘導について」はアドバイス・アイデア等をいただきました。

報告事項では、スノーモビルの乗り入れ関係、七曲がりのショートカット等について、事務局から報告・説明があり、また、昨年秋に大朝日岳周辺等で「マツノクロホシハバチ」によるハイマツの食害が新たに発見されたことから、今後の対応についても活発な議論が行われました。これまで、発見情報を森林管理局及び県内の関係機関、巡視員に情報連絡しており、更に、東北森林管理局管内の森林管理（支）署及び巡視員による巡視時に「マツノクロホシハバチ」を発見した場合の情報収集体制を整備しており、今後、巡視の際にハイマツの被害を注視するとともに情報収集に努めつつ推移を見守ることとしています。



今年度の管理委員会の審議の結果等も踏まえ、東北森林管理局朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターとして、これからも関係する方々や関係機関と連携しながら、朝日山地森林生態系保護地域の「地域参加型の保全管理」を推進していきます。